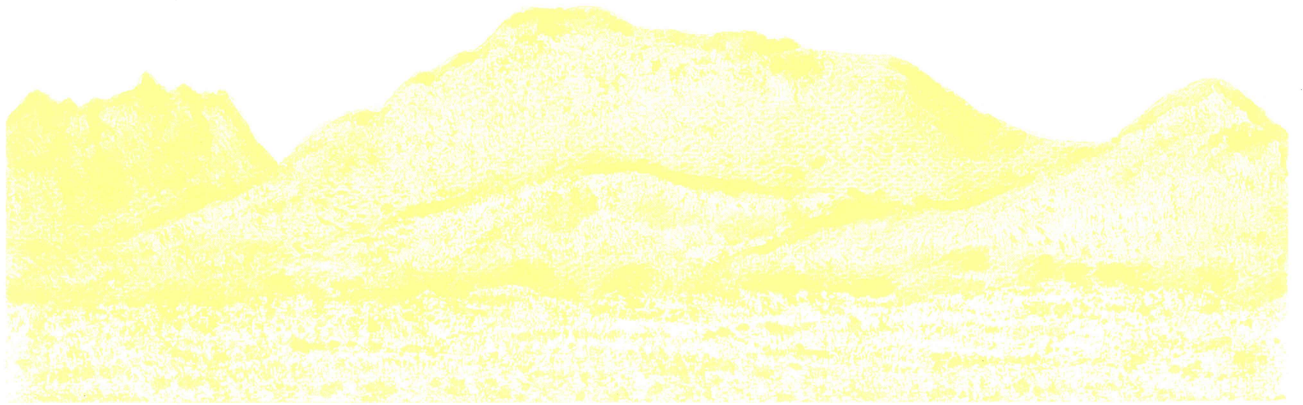


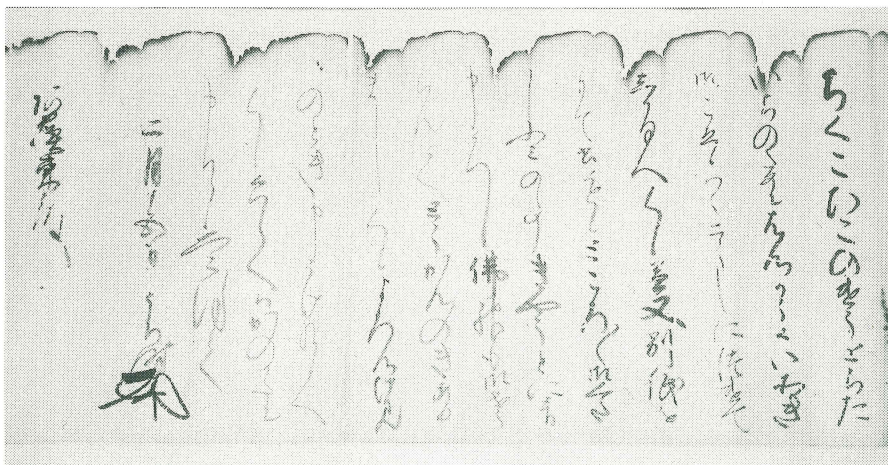
東光原

熊本大学附属図書館報



Kumamoto University Library Bulletin, No.7, Feb. 1994

目次 シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介 6
 ー重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)ー
 「図書館」から思い出すこと



大友氏時書状 (阿蘇家文書より) 本文に解説

〔一〕大友氏時書状

(筑後肥後) (凶徒等) (退治) (發) (向)
 ちくこひこのせうごらたいちのふめよまつくう候、いひき御こそ候ハ、
 (公私)
 こころにはせてふかるへく候、兼又、別紙をもて書進候ところ、御
 (下) (文) (京) (郡)
 くさふこの事、きやうごににり申候へく候、佛神も御せうらん候へ、
 (等) (開) (見) (參)
 とうかんのきあるまよく候、よろつけさんのごき申上げ給候へく候、
 くのくのかのうま申て候、恐々謹言、

(北朝康安二年)
 二月十五日
 (推村)
 阿蘇東殿
 (氏)
 うち時(花押)

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介6

重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)

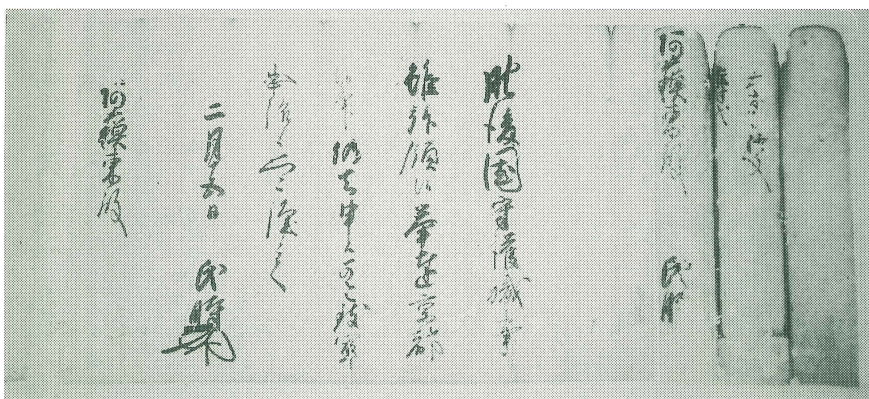
工藤 敬一

延文4=正平14年(1359)8月16日の大保原(筑後川)合戦における宮方(南朝方)の勝利によって、九州の情勢は大きく宮方優勢に傾く。前年末将軍に就任した足利義詮は、直ちに大友氏時を肥後の守護に補任、翌春には斯波氏経を九州探題に補し下向を命じた。しかしこの年は武家方・宮方とも前年の大会戦の痛手が大きく、双方とも指したる動きはなかった。翌延文6=正平16年になると、にわかには状況はあわたしくなり、阿蘇氏に対する双方の働きかけが活発化する。2月3日征西将軍宮懐良親王は、阿蘇惟澄に阿蘇社社務職と社領を安堵する。事実上の大官司職の承認である。一方、同月22日将軍義詮は、大友氏時の注進によって、阿蘇惟村(惟澄嫡子・前大官司惟時養子)の戦功を賞し所領を安堵するとともに、宮方によって報いられることなく不満をかこっている惟澄を肥後国守護職補任をもって誘引する。これに対し宮方の菊池武光は、惟澄の二男八郎二郎に「武」の一字を与え惟武を名乗らせる。惟澄は武家方の誘引には乗らなかったが、もはや積極的に動こうとはしなかった。惟村(系)と惟武(系)という武家方と宮方の対立は、以来それぞれ矢部と阿蘇南郷を根拠として、宝徳3年(1451)惟村系の惟忠が、惟武系の惟歳を養子に迎えるまで続くことになる。

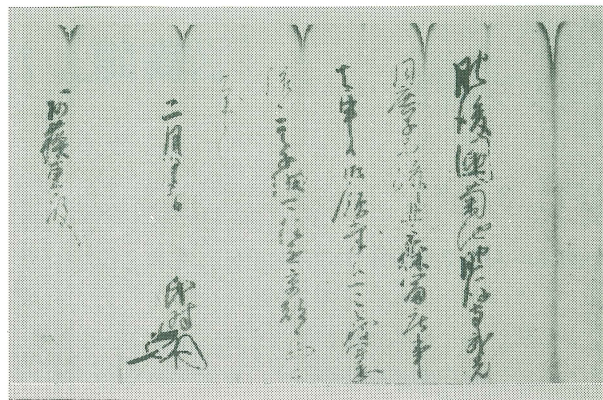
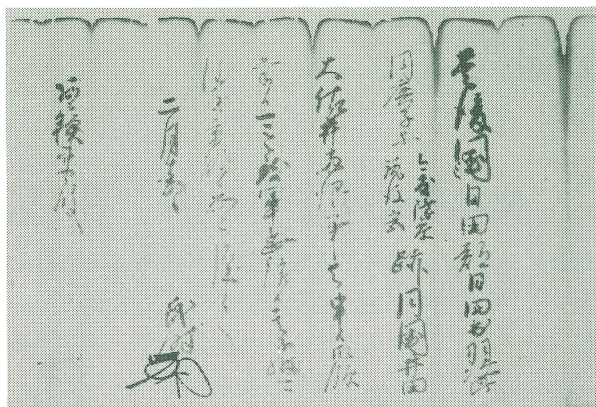
10月3日、前年から下向を命ぜられていた斯波氏経はようやく豊後府内に着くが、肥後経略の中心は依然氏時であった。氏時の戦略は阿蘇惟村を積極的に支え、

彼を中心に肥後経営に当ることであった。今回紹介する文書は、その翌年(康安2年)2月15日の惟村宛の大友氏時自筆書状…[一]と、同日付の氏時の3通の書状…[二]・[三]・[四]である。[一]は氏時が筑後・肥後の凶徒(宮方のこと)退治のため発向するので急ぎ来陣されたい、別紙に書きあげた所領について安堵の下文を給わるよう、京都(室町幕府)に必ずとりつぐことを神仏にかけて約束する、といている。[二]・[三]・[四]はその別紙に当る。このうち[二]は、自分のもつ肥後国守護職を惟村に去り渡すよう京都に挙達したこと、[三]・[四]はそれぞれ菊池武光と同庶子跡並びに守富荘(現熊本県下益城郡富合町)、および今度宮方に降参した豊後国日田郡の日田出羽次郎同庶子跡と同国井田(現大分県大野郡千歳村)・大佐井(現大分市)両郷を、惟村に去り与えるよう京都に注進する、というものである。そして同年10月7日に惟村を肥後の守護とする義詮の御判御教書が出された。もちろんこのあと10年間は懐良親王を中心とする征西府の全盛時代を迎えるので、惟村の肥後守護職がどの程度の実質を持ち得たかは問題である。

それはともかく、[一]は明らかに氏時の自筆書状であり、肥後経営に腐心する氏時のつよい惟村への働きかけを示すものである。上部が一部焼失しているのは残念だが、闊達な筆運びで仲々魅力ある書状である。[二]以下はもちろん右筆書で花押だけが氏時の自筆である。



〔二〕大友氏時書状
 (折封ウハ書)
 阿蘇東殿
 氏時
 肥後国守護職事、雖拜領候、
 舉達京都候畢、仍去申候、
 可令致軍忠給候、恐々謹言、
 二月十五日 氏時(花押)
 阿蘇東殿



〔四〕大友氏時書状
 豊後国日田郡日田出羽次郎同庶子等今度降参 跡同国井田大
 佐井兩郷事、去申候、御領掌候、可令致軍忠給候、其子細
 可注進京都候、
 恐々謹言、
 二月十五日
 阿蘇東殿
 氏時（花押）

〔三〕大友氏時書状
 肥後國菊池肥後守武光同庶子等跡并守森富庄事、
 去申候、御領掌候、可令致軍忠給候、其子細
 可注進京都候、
 恐々謹言、
 二月十五日
 阿蘇東殿
 氏時（花押）

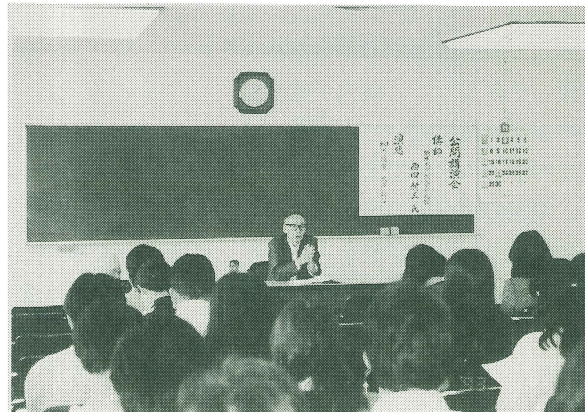
第10回特殊資料展・講演会を開催

中央図書館では平成5年11月15日（月）から17日（水）まで「細川重賢の文事」と題する特殊資料展を自由閲覧室において開催しました。

昭和59年から始まった特殊資料展も今年で第10回を数えますが、今回は、江戸中期の熊本藩主細川重賢の文事をテーマに、重賢が主催した漢詩や俳諧の会の興

行記録、重賢自筆の詩稿、茶道や謡の資料、日記、絵図類など重賢の幅広い文事活動を示す貴重な資料37点を展示して、学内外の参観者の興味をひきました。

また、16日（火）には、午後1時半より3時まで教養部西田耕三教授の「細川重賢の文事について」と題する公開講演会を行い、多数の聴講者がありました。



「図書館」から思い出すこと

文学研究科二年 何明慧

中国の大学で外国語学部日本語科に在籍していた私は、その頃から日本への留学を考えていました。日本に来る前から、日本の社会はどういうふうなところで、日本人はどんな生活をしていて、日本の学生は大学でどういった勉強をしているのか、留学したときに、自分の覚えた日本語がちゃんとつかえるだろうか、そんなことを考えながら日本語を勉強していました。私の周りの人達も、留学を希望している人達ばかりでした。私が卒業するころの中国国内は、外国に出て行くことが一種の流行のように起こっていて、私も同じように卒業したらすぐ留学しようと思っていました。しかし、私が実際に日本に来たのは卒業してから数年後のことでした。ちょうど私が卒業するころから、国内で一定期間仕事に就かないと外国に出る資格が貰えなくなってしまうためです。その間私は通訳の仕事をしなが、いつか留学ができる時を心待ちにしていました。あるとき、友人の紹介で日本に来るきっかけをつかんだ私は、これを機に、91年、熊本へやって来ました。熊本大学で「研究生」の手続きを取り、私の日本での生活は始まりました。

それからもう2年半の月日が経ちました。無事、院生にもなり、今は卒業に向けて忙しい日々をおくっている事を考えると、日本での生活も、振り返って見ると案外早かったような気がします。最初のことは生活も、勉強の面でも、いろんな処で大変なことや難しいことがありました。それでも、私の中では、社会人だった期間を経て、再び大学生活を送ることができるようになり、ある種の懐かしさと、とても新鮮な気持ちとがいつもあって、不慣れな部分で窮屈になることはたくさんありましたが、充実した毎日でした。

熊大での勉強面での不足を補うために、私はよく図書館に行きました。熊大で感じていた雰囲気は、中国での大学生活に近いものがあって、なじみやすかったのですが、大学の授業の仕方は、大きく違うものでした。中国の大学での授業は日本の高校のように、最初からカリキュラムが決まっていて、テキストを重視した授業内容だったので、その授業を受けることが一番重要だったのです。テキスト以外に必要なものはほとんど無かったので、図書館にも行くことはほとんどあ

りませんでした。もともと図書館も、閲覧室も満足になく、学生が自由に見て取れる書棚もなく、欲しい書籍は係に言って探して来てもらうのですが、書庫の内容も乏しいもので、必要な書籍がないということもしばしばでした。図書館に対するこうした思いがあった私にとって、熊大の図書館は本当に便利な所でした。熊大での授業は中国と違って、授業内容についていろいろと自分で調べる部分が多く、自己啓発的な方法がととても新鮮で、感動しました。また、そのためによく図書館を利用することになるのですが、図書館のほうも、授業に必要な基本的な書籍がちゃんと揃っているので、この点も中国とは違って感心しました。授業面以外でも自分にとって必要な勉強をするときに、やっぱりよく図書館を利用しました。広々とした閲覧コーナーで、本を広げてゆっくりと勉強ができ、資料が必要などときには、すぐに書棚に調べに行くことができるのも便利でした。コンピュータの情報システムを利用したデータベースによる資料の検索は、必要な書籍をすぐに見つける事ができ、また、熊大にない資料は、他の大学から取り寄せてくれたりと、細かいところにもサービスが行き届いていて、本当に助かりました。日本の学生にして見れば当たり前のことなのかも知れませんが、私にとっては、一つ一つが新しいことであり、また、中国の大学の図書館でも、こうなれば学生にとって、とても有意義な学生生活のスペースの一つになると思う事ばかりでした。

今も、卒業論文を執筆するために図書館から多くの書籍を借りています。以前のように、館内でノートをとったりすることはなく、家で論文をこつこつと書いていく毎日なので、前にも増して本を借りる量が増えてしまい、持ち運びにも苦勞することになります。(笑)、やっぱり内容の充実した図書館があるお陰で、私の大学生活も有意義なものになりました。最後に少し私の希望を言うと、新聞・雑誌コーナーに台湾、香港のものだけではなく、大陸の新聞や雑誌もおいて欲しいなあ、と思います。

中国に帰ってから日本留学のことを思い出すとき、図書館をよく利用したことは、大学生活の思い出の一つとしていつまでも覚えていると思います。

図書館諸統計（平成4年度）

Ⅱ 利用統計(続き)

⑤ 文献複写年間統計

	学外へ依頼		学外からの受付		学内処理	
	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数
中央図書館	3,603	35,512	2,178	15,862	2,972	16,820
医学部分館	916	6,098	4,426	24,083	244	3,652
薬学部分館	299	2,211	582	3,354	440	4,374
合計	4,818	43,821	7,186	43,299	3,656	24,846

⑥ 中央図書館文献複写年次推移

昭和63年度	1,844		1,443	11,031	2,479	13,249
平成元年度	2,387		1,974	16,221	2,114	13,150
平成2年度	1,871		2,479	18,971	2,830	12,196
平成3年度	2,931	30,976	1,921	14,877	4,189	14,552
平成4年度	3,603	35,512	2,178	15,862	2,972	16,820

⑦ 医学部分館文献複写年次推移

昭和63年度	888		5,959		1,103	
平成元年度	858		6,128		667	
平成2年度	598		3,444		533	
平成3年度	918	5,374	3,366	21,536	322	4,931
平成4年度	916	6,098	4,426	24,083	244	3,652

⑧ 薬学部分館文献複写年次推移

昭和63年度	337		231		207	
平成元年度	331		277		156	
平成2年度	276		203		312	
平成3年度	328	1,893	278	2,539	404	4,017
平成4年度	299	2,211	582	3,354	440	4,374

⑨ 全学統計文献複写年次推移

昭和63年度	3,069		7,633		3,789	
平成元年度	3,576		8,379		2,937	
平成2年度	2,745		6,126		3,675	
平成3年度	4,177	38,243	5,565	38,952	4,915	23,500
平成4年度	4,818	43,821	7,186	43,299	3,656	24,846

⑩ 図書館間相互貸借統計年次推移

	中央図書館		医学部分館		薬学部分館		計	
	依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付
昭和63年度	149	108					149	108
平成元年度	164	142					164	142
平成2年度	132	199	2	8	2		136	207
平成3年度	284	276		15		1	284	292
平成4年度	319	362	0	8	0	2	319	372

本学教官寄贈著書紹介（中央図書館）

（中央図書館）

金子正信名誉教授

詩集 龍南落葉集

金子正信著 1993.7

上利政彦教授（文・英語学）

言葉の实在『失樂園』の思想と文体

上利政彦著 英宝社 1992.6

首藤基澄教授（養・文学）

句集 己身 こしん

首藤基澄著 角川書店 1993.11

西田耕三教授（養・文学）

生涯という物語世界 説経節

西田耕三著 世界思想社 1993.10

松元尚大教授（養・保健体育）

Jambo ! AFRIKA

20年前調査隊がとらえたアフリカの素顔

熊本大学アフリカ現地人体質学術調査隊

写真集刊行委員会 1993.9

大熊 薫助教授（養・フランス語）

イエスと歩む 福音宣教の旅

トマ・リシャル、大熊 薫共訳

ドン・ボスコ社 1993.8

最近購入した参考図書の中から

図解動物飼育の事典 改訂四版

岡田要監修 東洋出版 1992

哺乳類のイヌから鳥類、昆虫類、魚類、両生類、爬虫類、その他アメーバ等に至るまでの、様々な生物の飼育方法について、その選び方から法律に関する事まで解説してある。資料として「標本製作」や「観察と解剖の図解」が付いている。

現代英文法辞典

荒木一雄・安井稔 [編]

三省堂 1992

英文法の中核は統語論にあるが、それを取り巻く諸分野、音韻論、語用論等々の分野に対する十分な目配りなしには論ずる事は不可能であろう。近年の著しい研究発展を遺漏なく平易な言葉で述べてあるのが本書の特色であり、本学教養部(英語)福澤助教も執筆者の一人である。

世界鳥類和名辞典

山階芳磨著 大学書林 1986

世界の鳥類の和名付けを地域別に企画し、分類体系したもの。地域別による英・和名の混乱や、種の重複や欠如を調整して統一された世界鳥類リストとなっている。

学生・社会人のための図書館活用術

藤田節子著 日本アソシエート 1992

今日の渦巻く情報化の中で図書館をうまく使いこなせるかどうかで得られる成果には大なる差が生じます。図書館を効果的に利用するにはどうしたらよいか非常に簡潔にわかりやすい言葉で説明してあります。

国立国会図書館蔵書目録 昭和61～平成2年

国立国会図書館編・発行

1991～1992 20冊

第1編～第9編、書名索引、著者名索引。

国立国会図書館蔵書目録 洋書編 昭和23年～昭和61年8月

国立国会図書館編 紀伊國屋書店発行

1990～1992 9冊

第1巻～第9巻。

国立国会図書館所蔵洋図書 昭和61年9月～平成2年12月

国立国会図書館編・発行 1991～1992 7冊

第1巻～第4巻、著者名索引、書名索引。

洋図書74, 189件収録。

国立国会図書館所蔵洋図書目録 平成3年

国立国会図書館編・発行 1992.6 1冊

洋図書15,932件収録。巻末に著者名索引、書名索引。

(情報サービス課参考係)

目録データベースの検索方法について

図書館では昭和62年度より目録業務(学内所蔵情報の管理)を電算化し、学術情報センターと連携をとりながら、図書は62年度受入分以降を、雑誌は所蔵分全てを目録データベース(以下DB)へ登録しています。現在、目録DBを検索するには次の3つの方法があります。

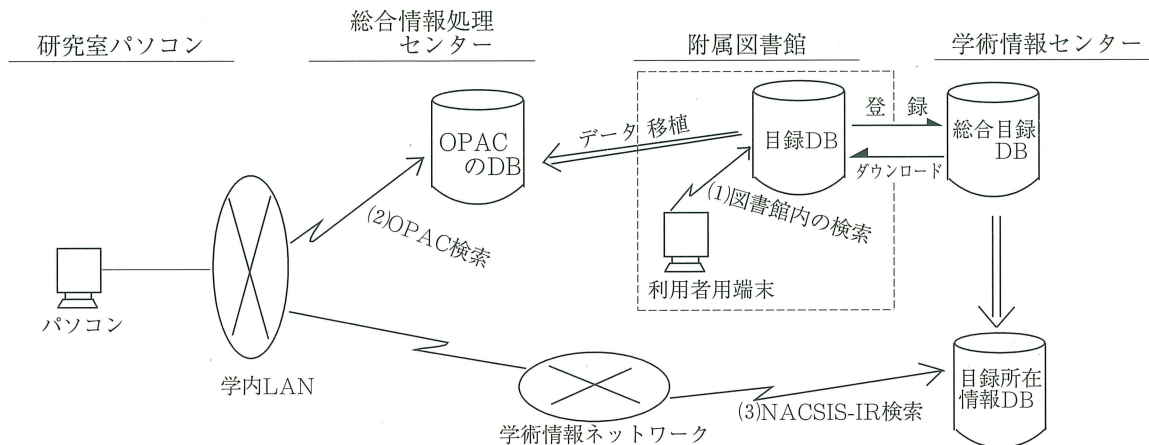
- (1) 熊大図書館の目録DBを検索
- (2) OPACを検索
- (3) NACISIS-IRで目録所在情報DBを検索

このうち、(2)と(3)は学内LANを経由して研究室のパソコンからもアクセスできます。但し、(2)はサービス向上を図る作業のために、平成6年2月よりしばらく利用できませんが、春以降にはサービス再開の予定です。(3)は東京にある学術情報センターのオンラインサービスNACISIS-IRで学術情報センター

の目録DBを検索する方法です。この目録DBは全国251の大学を始めその他合わせて289機関(H.5.12.3 現在)が参加して作られたものですから、これを検索すれば、熊大以外の所蔵も同時に知ることができます。なお、IRへ接続するには利用申請が必要で、また1回あたり30円の利用料金もかかります。接続方法等については、総合情報処理センターまたは情報サービス課参考係(内線2227)へお尋ね下さい。

(情報管理課 目録係)

図1



お手元のパソコンから文献の申込みを

新年度より図書館では、学術情報センターのNACISIS-IRを通じて、文献複写、及び、現物貸借の申込みができるサービスを開始します。

これは研究室のパソコンから、NACISIS-IRのデータベースを検索し、必要とする文献があれば、その画面からリクエスト (REQUEST) コマンドを発行することにより、自動的に熊大図書館のILL (図書館間相互貸借) システムに、その文献の「複写/貸借申込」が送信され、研究室から文献の申込みができるサービスです。この申込分については、これまでの「相互利用申込書」の提出は要りません。

このサービスを利用するには、学術情報センターにNACISIS-IRの利用登録をしていること、又、所属キャンパスの図書館にNACISIS-IRからの申込みの利用申請をして頂くことが必要です。操作マ

ニュアル、利用申請書は中央館、各分館に備え付けてありますので、どうぞご利用下さい。

なお、詳しいことについては、中央館参考係 (内線2227) にお問い合わせ下さい。

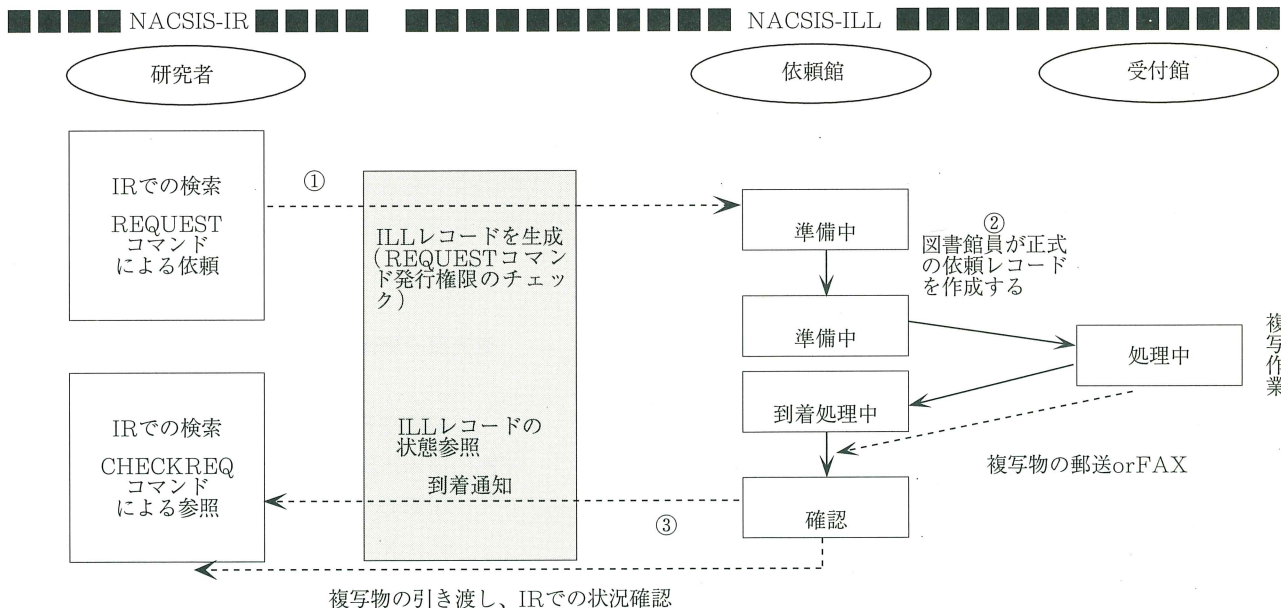
(情報サービス課参考係)

NACISIS-IRとは?

NACISIS-IRとは、学術情報センターが提供しているオンライン情報検索サービスです。主なデータベースとして、目録所在情報データベース (和・洋図書、和・洋雑誌)、雑誌記事索引データベース、COMPENDEX PLUS (工学系)、MathSci (数学系)、SciSearch、Social Sci Search、学会発表データベース、研究者ディレクトリ等があります。

利用料金は、データベースにより異なりますが、JOIS、DIALOG等の商業データベースより安い料金で利用できます。

図2



日誌 (平成5.9.1 ~12.28)

- 9. 2 図書館報編集委員会
- 9. 7 附属図書館係長会議
- 9.13 附属図書館委員会
- 9.20 第6回国立大学図書館協議会シンポジウム
~22 (於神戸)
- 9.21 九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議
~22 (本学当番)
- 9.28 古典籍研修会
- 10. 5 古典籍研修会
- 10. 6 N A C S I S - I R 講習会 (於吹田)
~ 9
- 10. 7 附属図書館係長会議
- 10.19 古典籍研修会
- 10.28 学内LAN 建設専門委員会
- 11. 2 附属図書館委員会
- 11.12 日本薬学図書館協議会九州地区会議 (於長崎)
~13
- 11.15 第10回特殊資料展
~17
- 11.16 学内LAN 建設専門委員会
- 11.19 図書館報編集委員会
- 12. 2 附属図書館係長会議
- 12. 7 古典籍研修会
- 12.21 古典籍研修会

人事異動

- 平成5.10.1 情報管理課総務係会計主任
内 山 慎 一
八代工業高等専門学校庶務課庶務主任
へ転出
- 同 附属病院医事課入院係入院統計主任
淡 路 純 一
情報管理課総務係会計主任へ配置換
- 同 情報管理課目録係
中 川 智 之
情報サービス課学術雑誌係へ配置換
- 同 経理部情報処理課
森 下 和 博
情報管理課目録係へ配置換



訃 報

二宮純恭氏

平成5年12月14日午前0時45分入院先の九州大学附属病院で逝去されました。享年50才。同氏は平成3年4月、九州大学附属図書館より情報サービス課長として赴任され、図書館の電算化、酸性紙問題、館報「東光原」の創刊に尽力されましたが、志半ばにして病に倒れ治療のいかなく、遂に不帰の人となりました。将来を嘱望されていただけに惜しまれてなりません。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

実務者連絡会議を開催

平成5年度九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議が9月21日~22日当館当番で開かれました。15大学20名の参加のもと、1. NACSIS-IRからILL申込機能の運用について 2. 市民への開放、生涯教育への対応について 3. CD-ROMサービスについての3協議題が熱心に討議されました。

原稿募集

館報「東光原」に掲載する原稿を募集しています。図書館に対する意見・不満等なんでも結構です。皆様の忌憚のない御意見(400字詰原稿用紙5~6枚程度)をお待ちしています。

(情報サービス課 参考係 内線2227)

東光原一熊本大学附属図書館報一第7号

平成6年2月

編集発行 熊本大学附属図書館

〒860 熊本市黒髪2丁目40番1号

TEL (096) 344-2111

FAX (096) 345-9087